

伊丹市議会議員 **おおつる 求** の活動報告

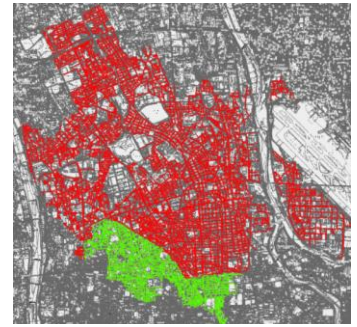


みんなちがって、 みんないい



「民間委託しないと交付金あげない」という国の愚策

上下水道は社会的基盤 市へ慎重な検討を求める



市内污水管及び合流管

伊丹市の上下水道事業は、取水・浄水・配水を一元管理する“理想的な運営形態”を維持しており、ウォーターPPPを導入する必要は無い。これが本市の基本的な考えだ。

市内約476kmある下水管。上下水道局は損傷した管を年約2km改良工事している。その費用の半分は国の交付金(約1億2千万円)。その交付金が無くなったら市の負担が倍になる計算だ。

—— 理不尽な国の交付金要件

国は2027年度以降、「ウォーターPPP導入決定済み」であることを“交付金の要件”と決めた。そのため上下水道局は下水道分野でウォーターPPPの導入検討・調査をすすめている。

—— 経費削減のカラクリ

国は民間委託すれば経費削減できるというが、それは労働者が不安定雇用や低賃金だから。また民間が求めるのは「利益」であり、「住民福祉の増進」ではない。



—— 世界の流れは「再公営化」

過去、公共サービス民営化、規制緩和は多くの国で行われてきたが、2010年代からヨーロッパを中心に再び公営にする「再公営化」が主要な流れとなっている。

私たちの生活に必要な不可欠な「水」の問題だけに、上下水道局には長期的な視点を持って慎重に検討して欲しい、と要望した。

ウォーターPPPとは
水道施設の管理、維持、更新(改善)を含めた運営を、民間事業者に委託する方法。

そもそも PPPとは
Public Private Partnership の略。
国は「官民連携」という。

視覚に障がいのある市民の体験談から考える“合理的配慮”

市役所本庁舎の
期日前投票に行ってきました。

「こっちにいてください」
「もっとこっち」
「そこに座ってください」



僕は白杖を持っている。
視覚障がい者だとわかるはず。

女性が手を引っ張って行こうとする。
「もう少しこっちに」と言うので、
「そんな言われ方、分からないよ」と言う。
すると「もっと東の方に」。
「どっち向いているか分からない」と言う。

その方が、うろたえ始めたので、
僕が案内の仕方を教えた。
「時計の針で指示してくれると嬉しいよ。
右なら3時の方向、左なら9時の方向」

僕についてくれた方は、
一生懸命考えて伝えようとしてくれる。

期日前投票所に入った。
その女性が悩んでいるようなので、
「それは3時の方向」と話しながら歩く。

すると、別の人が僕に
「無駄な話をせずに静かにして下さい！」
と伝えてきた。

無駄・・・
何が無駄な話なのか。



あっちこっちから始まり、
投票用紙をもらう場所も、
投票箱もわかんないし。
選挙のたびに同じこと。

【体験文を要約・抜粋】

昨年10月執行の衆議院選挙では、庁舎1階に期日前投票所が設置され、多くの有権者が利用した。

白杖を持ち投票所へ行くたびに、「困った人間扱いされ惨めになるけど、それを覚悟して投票へ行く」と彼は言う。

今回、選挙管理委員会に質問して、期日前投票における彼の体験は“起こるべくして起こった”ことが鮮明になった。

——市職員向けに「応対手引き」を作成していた

選挙管理委員会は国のマニュアルをもとに、障害福祉課と連携し、市職員向けに市独自の「障がいのある方への投票所応対手引き」(応対手引き)を作成していた、という。

——ただ、期日前投票所内に市職員は誰もいなかった

スタッフは、案内係としてシルバー人材センターの方が、名簿照合・投票用紙交付係に派遣会社の方が配置された。また選管委員長などを経験した投票管理者と、投票立会人で対応していた。市職員は誰も常駐しておらず、問題があれば連絡(内線)してもらおう体制だった。

——作成した「応対手引き」は配布・説明していない

スタッフの事前研修は1時間。選挙の基本業務と注意点、代理投票の対応等を説明。派遣スタッフには端末操作も。

投票管理者及び立会人へは管理者・立会人用手引きを郵送。市独自の「応対手引き」は配布されなかった。

——投票管理者に知識がなかった

「静かに!」の言動は、投票管理者が投票所内の秩序維持のため、話の内容ではなく、声の大きさを注意した。

——市にとって合理的配慮は「施設バリア」が第一。

スロープ設置・点字機・老眼鏡・投票支援カード・筆談用ボードなど、施設バリアフリーを“第一”に対応している。



職員不在(職員不足)、時給発生のため不十分な事前研修(経費節減)、管理者の資質等、色々と考えさせられた。

「伊丹市はハードは強いけど、ハートが無いよね」

以前、彼が呟いた言葉が脳裏をよぎった時間だった。

稲野公園等が大幅リニューアル



スポーツに対する市民ニーズの変化や、市内運動施設の老朽化等の課題解決のため、「スポーツ施設適正化計画」が策定された。

猪名野神社境内にある相撲場の移転や、稲野公園運動施設とローラースケート場の転用・廃止などに向け、来年度から個別計画が策定される。

また、猛暑・熱中症対策として、市内学校体育館に続き、スポーツセンター体育館及び、緑ヶ丘体育館・武道場、スワンホール体育館にも、来年度から再来年度にかけて順次、空調を設置する。

学校給食アレルギー、センター建て替えの件

食物アレルギーがある市内児童・生徒は、小学生5,21%、中学生4.50%であり、その割合は年々増加している。学校給食では、卵アレルギーの子どもを対象に卵除去食を提供しているが、小学生138名、中学生64名と提供人数も年々増加傾向だ。

教育委員会はアレルギー事故発生時に備え、給食担当者会議で「アレルギー対応マニュアル」の周知徹底をおこない、迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。

小学校給食センター（第2センター）は築50年弱となり、耐震基準も満たしていないため、隣の天王寺川中学校テニスコートに建て替えし、2027年度中の稼働を目指す。その後、現在の第2センター跡地をテニスコートとして整備することとなった。



子どもを連れていく必要があるのか

県内意向調査結果

(9月20日時点)

対象校 1,370校

回答数 1,010校

回答率 74%

招待プロジェクトを

希望する 28%

希望しない 59%

検討中 13%

2025年4月から大阪・関西万博が開催される。

兵庫県は、万博訪問を希望する学校へチケットを無料配布する「万博子ども招待プロジェクト」に参加するか否か、県下学校に意向調査をしていた。

この度、伊丹市立小中高校及び特別支援学校の意向が明らかになった。

現時点では、「行く予定」10校、「行かない」16校、「検討中」1校。

ただ希望日に、希望パビリオンへ入場できるのか調整中であり、万博事務局からの返答次第では、「行く予定」が減少する可能性がある、とのこと。

また、市教育委員会へ「行く予定」の学校及び学年の公表を求めたところ、「様々な反響が予想される」という理由で非公表とされた。

学校による現地見も開幕直前になるなど不安定要素も多い。様々な反響が予想される場所へ、わざわざ学校行事として子どもを連れていく必要があるのか、疑問は募るばかりだ。

フォト・ダイアリー ～日常の一コマ～



[写真説明 左上から時計回り]

- 毎年恒例の阪神土建労働組合伊丹支部と伊丹市の政策懇談会。
 - 見て楽しい、食べておいしい国際まつり 第28回伊丹マダン。歌・踊りが次々と登場する舞台、多国籍な屋台が並んだ“ひろば”。
 - 伊丹駅前“ひとり街宣”をした日々。
 - アイ愛センター恒例の冬のイベント「フェスタ・インいたみ」。
- 障がい児・者作品展、フリーマーケット、ステージイベントに大抽選会。



**学校給食無償化を国に
求める意見書を採択**

伊丹市議会は12月議会最終日、国の責任で、学校給食無償化を実施することを要望する意見書を“全会一致”で採択した。



市政に対するご意見や疑問、お聞かせください。困ったこと、悩んでいること、一緒に考えましょう。

伊丹市議会議員 **おおつる 求**

090-8122-7114 <https://ootsuru.com/>



【プロフィール】1971年福岡県大牟田市生まれ。稲野町在住。
 ■近畿大学法学部法律学科卒 ■国際交流NPOスタッフとして「地球一周の船旅」参加 ■中川智子衆院議員(前宝塚市長)秘書 ■建設従事者の組合・阪神土建労働組合書記局に入局
 ■2015年市議選に社民党公認で当選。19年再選、23年3選
 ■会派「フォーラム伊丹」所属 ■稲野自治会役員 ■防災士

日々雑感

- ゴールしたランナーのみに配布されるスポーツタオルが欲しい、と思いつながら完走した「神戸マラソン」。暑かった。
 - 呼称に違和感。バイトで無く「犯罪」。
 - 兵庫県知事選挙で、相手を貶めるため使われた「外国人参政権の公約」。
 - 「差別の選挙利用」に危機感を抱いた。
 - 紅葉が見頃の12月って、フシギだ。
 - 核兵器が二度と使われてはならない。日本被団協が「ノーベル平和賞」を受賞。
 - 議会後に開催する報告会も31回目。
 - 医師・森川すいめいさんが優しく語る「オープンダイアログ」。開かれた対話。
 - 兵庫県内の交番が統廃合されていく。
 - 札幌・東京高裁に続く違憲判決。同性婚を認めないのは、憲法13条(幸福追求権)侵害で違憲、と福岡高裁。
 - 少し懐いてきた。#保護猫と暮らす
 - GIGA、AI、DX、EV、ビジョン、マネジメント、クラウド、カーボンゼロ、フレイル、サウンディング、ポテンシャル。
- ”行政あるある“横文字と格闘する日々。